

令和2年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会 書面開催結果

- 1 開催期間 令和2年10月16日(金)～令和2年11月6日(金)
- 2 参加委員 24名
- 3 評価結果 以下のとおり了承された。
  - (1) 原子力施設環境放射線調査結果(令和2年度第1四半期)
    - ア 原子燃料サイクル施設  
環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。
    - イ 東通原子力発電所  
環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。
    - ウ リサイクル燃料備蓄センター  
環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。
- 4 東通原子力発電所温排水影響調査結果(令和2年度第1四半期)  
水温・塩分、水質及び生物等の各調査結果は、概ねこれまでの調査結果と同様の範囲であった。
- 5 評価委員会委員意見及び回答 以下のとおり。

資料1 環境放射線調査報告書(案) (令和2年度第1四半期報)

委員意見	回答
<p>土壤等の測定対象核種にBi-214、Ac-228のウラン、トリウム系列の天然に存在する核種が含まれていますが、目的は何でしょうか？ また、Bi-214の測定は試料を密閉してRa-226と平衡になるような計り方でしょうか？【山澤委員】</p>	<p>天然放射性核種については、その濃度等を把握することにより、試料の性状、前処理、分析及び測定の妥当性を確認するなど、モニタリング結果の評価の参考として用いているものです。 ご指摘いただいたBi-214の測定方法については、人工放射性核種を迅速に測定する観点から、測定試料の調製後、平衡を待つことなくすみやかに測定することとしております。【県】</p>

資料4 「緊急事態が発生した場合への平常時からの備え」を目的とした調査に係る原子力施設環境放射線調査結果報告書への記載について

委員意見	回答
<p>資料4の表の中に、環境試料(土壤、陸水)5年に1回程度、とありますが、どこで、いつサンプリングするのか、この調査が、緊急時への平常時からの備えとどう結びつくのか教えてください。【大桃委員】</p>	<p>資料4にある「緊急事態が発生した場合への平常時からの備え」を目的とした環境試料(土壤、陸水)の調査地点については、「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画(令和2年3月改訂)」表4及び図4(別紙1及び別紙2参照)に記載の土壤57地点、陸水(水道水)6地点としており、5年間でこれらの地点の調査が一巡するよう、計画的に調査を進めてまいります。 これらの調査は、原子力発電所の通常運転時の水準を把握し、緊急時モニタリングの結果を適切に評価するため、緊急時モニタリングを主に実施する範囲である原子力災害対策重点区域を考慮し、発電用原子炉施設の30km圏内において実施するものです。【県】</p>

委員意見	回答
<p>本年2月6日の時点で「平常時においては評価委員会への報告事項とする」とされているが、この時の具体的「報告」方法として「年度報のデータ集に掲載すること」を想定していたのであれば、今回、この「資料4」の提出は必要なかった筈。当時、「口頭報告（説明）」、或いは四半期ごとの「データ集掲載」を想定していたのであれば、今回この点を変更する理由についての説明（資料4への記載）があるべき。【杉山委員】</p>	<p>本年2月6日の「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画の改訂について」（令和元年度報 付5）作成時点では、具体的な報告方法として、年度報のデータ集に掲載することを考えてはいたものの、資料に明記していなかったため、今回改訂後の計画に基づく測定結果が掲載される令和2年度第1四半期のタイミングで資料4を作成したものです。【県】</p>

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

委員意見	回答
<p>参考資料1にある「日本原燃の高レベル放射性廃棄物貯蔵センター排風機の停止」の件に関して若干気になりましたので記させてもらいます。本件、約3ヶ月前の7月21日に発生したにも関わらず原因、対策について調査中とされており、プレスリリースにもB情報とカウントされてはいたようですが記述は有りませんでした。</p> <p>ガラス固化体の貯蔵管理施設ですので、正圧になった事が直ちに放射性物質の環境放出に繋がる事では無いと思いますが、排風機のトラブルは過去に他施設でも発生しており原因・対策の整理状況を聞かせて頂ければと思います。【片桐(裕)委員】</p>	<p>本事象の原因および対策については、現在調査・検討中ですが、作業指示および作業手順の不備に起因するものと認識しており、公表時に原因および対策をご説明いたします。【日本原燃(株)】</p>
<p>トラブル等一覧の p.4「高レベル放射性・・・換気設備の停止」について、</p> <p>①事象概要の記述において、「ガラス固化体受入れ建屋」と「ガラス固化体貯蔵建屋」の2つの「建屋」があるのに対し、「検査室送排風機」と「管理区域送排風機」は1系統（共用）なのか2系統（それぞれ）なのか、或いは「ガラス固化体受入れ建屋の検査室送排風機」及び「ガラス固化体貯蔵建屋の管理区域送排風機」なのかが分からない。【杉山委員】</p>	<p>①「ガラス固化体受入れ建屋」と「ガラス固化体貯蔵建屋」の2建屋の共用です。【日本原燃(株)】</p>
<p>②「負圧が維持されなくなった」ではなく、「正圧となった」とあるが、正圧の値はどの程度か。また、正圧となったメカニズムは、送風機と排風機が電源断となった時刻のズレか、或いは同時に電源断となった後の送風機と排風機の慣性回転の差か。【杉山委員】</p>	<p>②数Paの微正圧です。送風機および排風機が停止したことにより徐々に大気圧に近づき正圧となったものです。【日本原燃(株)】</p>
<p>③事象発生「日時」について、一般的には◎時◎分「頃」と書かれるが、この事象について「14時25分」と断定的に記載しているのは何故か。もし、データ・ロガー等で正確な時刻が読み取れたのであれば、その時刻は送風機・排風機のいずれかが最初に電源断となった時刻か、送風機・排風機全てが電源断となった時刻か、或いは送風機・排風機が「全台停止した」時刻か、「正圧となった」時刻か。</p> <p>（上記①～③については原燃殿のホームページを見ても解りません。）【杉山委員】</p>	<p>③送風機・排風機が全台停止した時刻です。【日本原燃(株)】</p>